

令和5年度 学校評価実施報告書

学校番号 93 学校名 千葉県立匝瑳高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>①「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」 職員肯定率74.1% (前年比-6.3)</p> <p>②「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」 生徒肯定率90.6% (前年比+2.1) 保護者肯定率69.6% (前年比-2.7) 職員肯定率84.5% (前年比-11.9) 生徒肯定率が職員肯定率を上回った。 学校ホームページの更新回数は減ったが、行事では生徒の様子等掲載している。 「教育情報の提供をしている」 保護者肯定率73.4% (前年比+0.7)</p> <p>③「学校教育の方針を理解してもらうように努めている」 保護者肯定率78.0% (前年比+0.7)</p> <p>④「働き方改革を意識している」 職員肯定率62.1% (前年比-11.1) 一部の教員に負担がかからないよう「自分事としてとらえること」「自分のやることの先に誰かがやっていること」「連携を図りチームとして課題を解決すること」を職員に促していく。</p>	<p>①会議の目的を明確にし、内容を事前に共有していくことで、議論の質を高めていく。教員同士がお互いを気にかけていくよう指示を出す。</p> <p>②生徒の「人格・主体性の尊重」「心理的安全性の確保」「自己有用感に裏付けされた自己肯定感の向上」を図る授業や諸活動のより一層の充実。学校評価アンケートより、職員の肯定率が低下している。生徒の肯定率は伸びているので、自信をもって人権指導に当たるよう激励する。 学校の取組や生徒の活動の様子など内容の充実と最新の情報を常に提供できるように随時ホームページの更新を行う。</p> <p>③保護者だけでなく、地域の方々にも学校の様子を見ていただく機会を設ける。次年度から総合学科を開設する。生徒による地域清掃や地域の活動に参加させるなど、地域と協働する機会を積極的に設ける。</p> <p>④モラルアップ委員会の実施、業務内容の取捨選択、管理職による面談等を通じて、職員へ働き方改革の意識付けを行う。チームとして取り組む意識を醸成をしていく。職員によるアンケート90%以上の肯定的意見を目指す。</p>
学習指導	<p>①授業評価アンケート 「授業への主体的参加度」 生徒肯定率93.0% (前年比+2) 「自分の考えを表現する場面」 生徒肯定率91% 保護者による授業参観から教科担当に厳しい意見をいただいている。進学指導及びタブレット活用について職員の意識を高めていく。</p> <p>②模試分析会議を6回行った。 (前年比+2) 面談等を通して生徒への支援・助言を丁寧に進めた。 講習延べ参加者 ・朝・放課後…185名 ・夏季…337名 ・ランクアップセミナー…40名</p>	<p>①新入生のタブレット活用、生徒個々の学習状況の把握と個に応じた指導等、生徒指導の機能を生かした授業づくり(自己肯定感、自己決定、共感的人間関係等)を率先して行う。 生徒の授業アンケート「自分の考えを表現する場面」85%以上は達成できた。</p> <p>②模試分析会議を継続して行う。「生徒が多様な進路選択ができるよう情報を伝達できる」「生徒自身に模試等の結果の振り返りを確実に行わせる」ことは、全職員共通の指導事項である。 1学年の講習では、「学習の学び直し」を次年度も実施する。高校の学習に取り残される生徒を出さない。</p> <p>③学習支援ソフトをはじめとする教職員のICT機器の活用力の向上に努める。引き続き</p>

	<p>③さまざまな理由で欠席が長引く生徒に対して学習支援ソフトを活用したり、家庭訪問時に課題を渡したりして、学びの保障に努めた。</p> <p>授業評価アンケート「ICT機器の活用等による授業内容の工夫」</p> <p>生徒肯定率64.0%（前年比-3.0）</p> <p>1年生のタブレット活用について、改善を促す意見があった。現在、職員の研修や研究授業、先進校への視察を実施し、タブレット活用促進に努めている。</p>	<p>き長期にわたる欠席者への学習保障の準備を怠らない。</p> <p>次年度も新入生にタブレットを購入させることから、授業評価アンケート「ICT機器の活用等による授業内容の工夫」目標値を80%以上とする。</p> <p>そのために教員の研修を充実させる。具体的には、校内研修とICT先進校視察を年複数回行う。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>①マナーアップウィークを5回実施。標語・ポスターの優秀作品に対し表彰を行った。迷子児童を保護し表彰（1年女子2名）。テレビや新聞等で報道された。</p> <p>被害目撃調査（年2回）、二者面談（年4回）の実施をし、いじめの未然防止・自殺予防・ヤングケアラー等の虐待発見に努めた。関係機関と連携をすすめている。</p> <p>②原付バイク通学者を対象に八日市場自動車教習所で講習会を実施した。</p> <p>「自転車ヘルメット着用推進校」として、定期的な自転車の安全点検・指導及び警察官を招いた生徒向け講習会を実施した。登下校時の原付バイク・自転車の乗り方についての苦情はなし。年間を通した原付バイクの事故は数件あったが、大きなけがにはつながらずに済んだ。</p> <p>③毎月、教育相談推進委員会を実施した。困り感のある生徒に対する支援の方法を確認した。定期的にSCに相談をする生徒もいる。</p> <p>「匝瑳高校には、進路や悩みなどの相談にのってくれる先生がいる。」</p> <p>生徒肯定率92.3%（前年比+1.4）</p> <p>毎月、「居場所カフェ」を実施している。</p> <p>全日制平均来場者数124.4名（前年比+67.3）</p> <p>卒業後の福祉とのつながりを視野に入れて活動を継続していく。</p> <p>生徒の満足度は、高い。</p>	<p>①「マナーアップウィーク」等生徒の自主的な取組を通し、匝瑳生としてのプライドを高めていく。人助け等善行をした生徒をHRや集会等で紹介する。</p> <p>学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの正しい理解と組織的な対応体制を堅持する。いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて、生徒の居場所づくり、教育相談体制のより一層の充実、ホームページによる情報発信、被害目撃調査の実施、SCやSSWとの連携、講演会の実施等職員一体となって取組む。アンケート調査「日頃、教職員間でよく話し合っている」職員肯定率80%以上を目標にする。（令和5年度65.5%）</p> <p>②学校安全計画に基づき、生徒の安全教育を推進する。通学用バイクの事故等については、安全面の指導（HRでの指導、集会、自動車教習所での安全指導）を引き続き行う。通学時における自転車ヘルメット着用率100%。歩行者への指導と合わせて生徒たちに「危険を予測する・回避する力」をつけさせる指導を全職員で行う。</p> <p>③SCや教育相談担当教員、特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的な教育相談体制の充実を図る。生徒指導、教育相談、特別支援を合わせた校内委員会は次年度も継続して行う。4月中にSCを講師に、教員向けに研修会を実施する。</p> <p>「匝瑳高校には、進路や悩みなどの相談にのってくれる先生がいる」生徒肯定率95%以上が目標。</p> <p>卒業・中退後の福祉とのつながりを視野に入れた「居場所カフェ（めぐりカフェ）」の定期開催の継続。満足度アンケート結果の検証を行う。</p>

<p>キャリア教育</p>	<p>①各講座参加生徒数 教職編… 17名 医療編… 6名 看護編… 3名 保育編… 13名 空港編… 10名 福祉編… 5名 起業編…実施なし 看護合格講座8名 生徒の進路選択における意識の醸成に有効であった。関連する大学・専門学校への進学率は高い。</p> <p>②1/19(金)「せんせいっていいもんだ」出前講座を実施した。本校卒業生の小田木由香教諭(匠瑛市立野田小学校勤務)を講師に招き、講演をしていただいた。教員志望の多い本校生徒にとって、有意義な講演であった。(生徒参加者22名) 7/18(火)1・2年生を対象に15の大学から、19講座の講師を招聘し、「大学模擬授業」を行った。 9/21(木)に1年生を対象に6名の社会人を講師を招聘し、「キャリアガイダンスセミナー」を行った。 「生徒一人一人に適した進路指導が行われている」 生徒肯定率82.5%(前年比+3.1) 「進路情報の提供、進路資料の使いやすさ」 生徒肯定率87.0%(前年比+2.0) 「匠瑛高校には、進路や悩みなどの相談にのってくれる先生がいる」 生徒肯定率92.3%(前年比+1.4)</p>	<p>①「仕事を知ろう～医療編・看護編・教職編・成田空港・福祉編・保育編・起業編」「看護合格講座」の実施を通してして、キャリア教育の推進を図る。体験を通して学んだことを進路や今後の生活に生かしていただけるように事前・事後の指導を大切にする。</p> <p>②教員志望の生徒が多いので、「せんせいっていいもんだ」出前講座は次年度も引き続き実施する。 「大学模擬授業」「キャリアガイダンスセミナー」についても同様に実施をしていく。 進学指導重点校として、進路指導部を中心に進路に関する情報提供を適宜行う。 「進路情報の提供、進路資料の使いやすさ」生徒肯定率90%以上が目標。生徒のやる気を失わせない言葉かけを大事にし、第一希望の進路先が達成ができるよう激励していく。</p>
<p>特別活動</p>	<p>①感染等を意識しながら諸活動を実施した。蔦陵祭・競技大会では、コロナ感染者を一人も出さなかった。修学旅行は、全行程を予定どおり実施した。 生徒による学校評価アンケートの結果から…「学校行事やHR活動に満足している」 生徒肯定率84.0%(前年比+4.4) 「部活動が活発に行われている」 生徒肯定率96.0%(前年比+4.0) いずれも前年を上回る結果となった。コロナ以前の状態に戻りつつある中で、行事の質的な内容や生徒の負担を考慮しながら検討してきた。</p> <p>②生徒による学校評価アンケートの結果 「施設・設備が充実している」 生徒肯定率47.0%(前年比+8.6)</p>	<p>①生徒自身の健康に対する意識を高める指導(うがい、手洗い、換気、咳エチケット等)を継続して行う。 次年度の行事について、アンケート結果やPTA、開かれた学校づくり委員から意見を求めるなど、安全かつ柔軟な対応を心がける。とくに生徒の意見を取り入れ、生徒の満足度を基準に行事の運営を行う。 「学校行事やHR活動に満足している」 生徒肯定率90%以上</p> <p>②施設・設備の老朽化の解消は難しいが、いつもきれいな状態になっているよう清掃に力を入れていく。壁の塗装等徐々に修繕を進めている。引き続き、県へ要望をしていく。</p>

<p>特別支援教育</p>	<p>①教員は、SC・SSWから支援の仕方等の助言を受けている。</p> <p>②定期的に特別支援教育推進委員会を実施。支援の仕方等を全職員で共有した。合理的配慮について、「小学校時の様子」がわからず指導・支援に困ることがあったところが課題である。</p> <p>SC・SSW以外に教育委員会・特別支援教育アドバイザーから、指導・助言を受けた。(今年度3回、昨年度2回)</p> <p>③「仕事を知ろう」教職編で県立飯高特別支援学校へ本校生徒17名が体験学習を行った。特別支援教育に興味を持つ生徒にとって貴重な体験であった。</p>	<p>①年度初めにSCやSSW、特別支援教育コーディネーターを交えた校内研修会を企画し、特別な支援を必要とする生徒の理解につながる校内研修を実施する。</p> <p>②特別支援教育推進委員会を学期2回、教育相談推進委員会は毎月実施をし、双方で連携を図り、生徒の情報を共有し、個に応じたきめ細やかな指導を推進する。</p> <p>今後、特別な支援を必要とされる生徒が増えることやすべての生徒がわかる・できるを目標に、常時、生徒の居心地が良い、授業に集中できる環境づくりをすすめる。</p> <p>中学校との連携を密に行う。気になる生徒は積極的に声をかけて、生徒理解を深めていくとともに、職員間の情報共有を確実に行う。</p> <p>③次年度以降も特別支援学校との交流を継続・発展させていく。</p>
<p>特色ある教育活動</p>	<p>①中2生対象学校説明会を実施した(1/27土)。</p> <p>理数科でサイエンスツアーを実施。東京大学柏研究所・JAXAつくばを見学(9/8金)</p> <p>太田祐介教授(千葉工業大学)を講師に理数科講演会を実施(11/16木)。</p> <p>総合学科開設に向けて、高大連携接続に向けて、調整をすすめている。</p> <p>理数科研究発表会(2/8木、八日市場第二中学校にて実施)</p> <p>出前授業…海上中(理科)、東金中(情報)から依頼があった。</p> <p>②交換留学を再開する(令和6年3月16日～28日、マサチューセッツ州)。生徒12名が参加予定。</p> <p>台湾への短期派遣(12月18日～21日)生徒1名が他校の生徒と参加した。</p> <p>生徒の授業アンケートから</p> <p>中国語…「対話的・深い学び」 満足度100%</p> <p>韓国語…「主体性、対話的・深い学び、丁寧さ」満足度100%</p> <p>③JRC部が中心となり赤い羽根募金運動、能登半島地震義援金活動を実施。生徒によるボランティア(豊和村夏・冬休み子ども教室等)参加者も多い。</p>	<p>①令和6年度開設の総合学科について、今後も多方面にわたって説明する機会を多く設けていく。</p> <p>サイエンスツアーで得た体験や知識を今後の学習活動や課題研究の場に活かせるよう指導する。八日市場第二中学校への理数科研究発表会を継続して行っていくことができるよう研究内容報告の質を上げていく。</p> <p>理数科講演会は生徒の満足度が高いので、次年度も実施に向けて準備をすすめる。</p> <p>出前授業は、依頼されたら進んで行き、匠瑛高校のよさをアピールしていく。</p> <p>②アメリカとの交換留学を再開した。留学をとおして異なる視点や価値観を学び、生徒の成長に刺激をあたえていく。留学の成果や結果を考察していく。</p> <p>中国語・韓国語の授業は、千葉県内の高校においても大変珍しい。特色ある匠瑛高校の教育内容をより一層外部にアピールし、認知されるようにする。</p> <p>③JRC部だけでなく、各部活動による駅前清掃など、ボランティア活動を積極的に行っていくよう職員や生徒会、部長に提示していく。</p>